寶暦十二壬午

美濃關

ひとり八重咲の志もものかハ　花鳥堂

神養子は雪ふるとりの　富士の山　知六

若人の杖も　赤乃答　小武

雪色に詩ふまじ　花明

歳暮

餅搗や　昨も天女乃　釋子　全

雲子　大きくまは連縛の　小武

代をうしなもの多　陰は寒　知六

雪ノ

蝿拂や　大馬を　粥の一座　小武

雲さ　蹴さ　狭き　柏　知六

青ひも仕合九の　新蕎子　竹明

餅雪

ちくさ、人のこころも武ノ人

牙嚙さ　九さん　水　柱子　思凡　知六

設計中を　はゝ　盃　小武

にし東都の色　ゆうの　花明

ちゝの雪　杉も　熊　白

鶏の勝　凱　歌上　三日　月　武

餅の苦句に　男子の　中　明

洛　橘　板